

麦づくり情報(No.7)



1. 麦作況情報田の出穂概況(4月4日現在)

麦種	播種時期	出穂期	状況
大麦	11月下旬	4月2日前後	幼穂形成期までは、生育初期の低温や乾燥が影響し、各品種・播種期とも平年より生育量少なく幼穂形成期も遅くなっていた。しかしながら、3月の平均気温は過去最も暖かく、サチホゴールデンはまもなく出穂期を迎えようとしており、これは、平年より3日程度早い出穂である。 一方、11月播種のシロガネコムギについては、幼穂形成期が9日と遅かったこともあり、出穂期は平年並みを見込んでいる。
	12月上旬	4月7日前後	
	12月中旬	4月9日～12日	
小麦	11月下旬	4月7日～9日	
	12月上旬	4月15日前後	
情報田			
川副：サチホ	12月10日	平年：4月10日※	
大和：シロガネ	12月1日	平年：4月12日	

※サチホゴールデンの平年値は、農試データ

2. 今後の管理

○小麦の穂揃期追肥

タンパク質含有率確保のため、穂揃期(全体の8割の穂が出穂した時期)追肥を徹底する。特に、11月中に播種された小麦は施用時期となっているため、**遅れないよう確実に施用する**。(施用時期が出穂18日以降になると、タンパク質含有率向上効果が低下する)

品 種	タンパク質含量の評価基準	
	基準値	許容値
シロガネコムギ	9.7～11.3%	8.5～12.5%
チクゴイズミ		8.0～13.0%
ミナミノカオリ	11.5～14.0%	10.0～15.5%

品 種	窒素量	実肥の施用量(※大豆跡も同量)
チクゴイズミ	2kg	硫安 10kg または 尿素5kg
シロガネコムギ	2kg	硫安 10kg または 尿素5kg ※葉色が SPAD40 以下の場合のみ
ミナミノカオリ	4kg	硫安 20kg または 尿素 10kg

「許容値」を外れると2ランク落ち(A→C, B→D)、交付金の単価が下がるので注意する。

※極端に葉色が薄い(SPAD 値 40 以下)圃場は、早め(出穂始めから穂揃期)に窒素施用量を基準より 0.5kg 程度増やして施用する。

○病害防除 (散布時期が遅れないよう各圃場の状況確認を)

赤かび病防除適期
大麦：葎殻抽出始め
(出穂期+14日後ごろ)
小麦：開花期～開花最盛期
(出穂期+10～14日後ごろ)

★網斑病防除について(大麦採種ほ)

出穂前のチルト乳剤 25 による防除を徹底する。

★赤かび病防除時期(予防が主体)

	播種期	3月末		4月上旬					4月中旬					4月下旬					
		27	29	1	3	5	7	9	11	13	15	17	19	21	23	25	27	29	
大麦	11月下旬			■	■														
	12月上旬					■	■	■											
	12月中旬							■	■	■									
小麦	11月下旬																		
	12月上旬																		

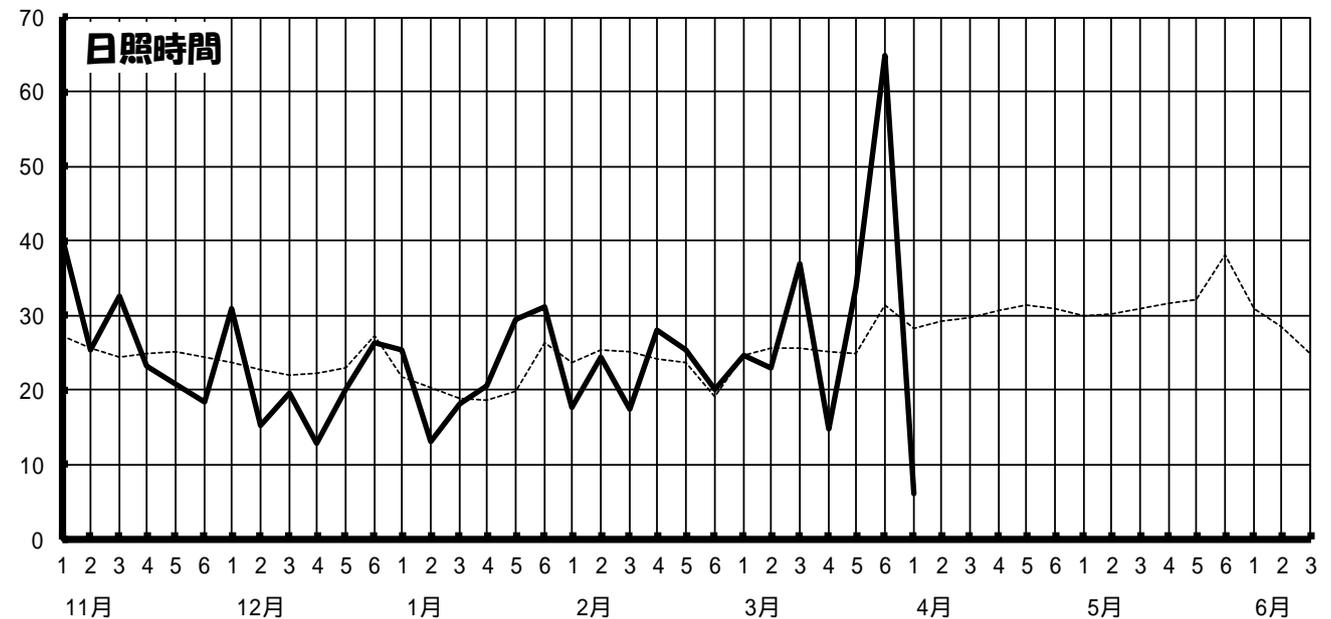
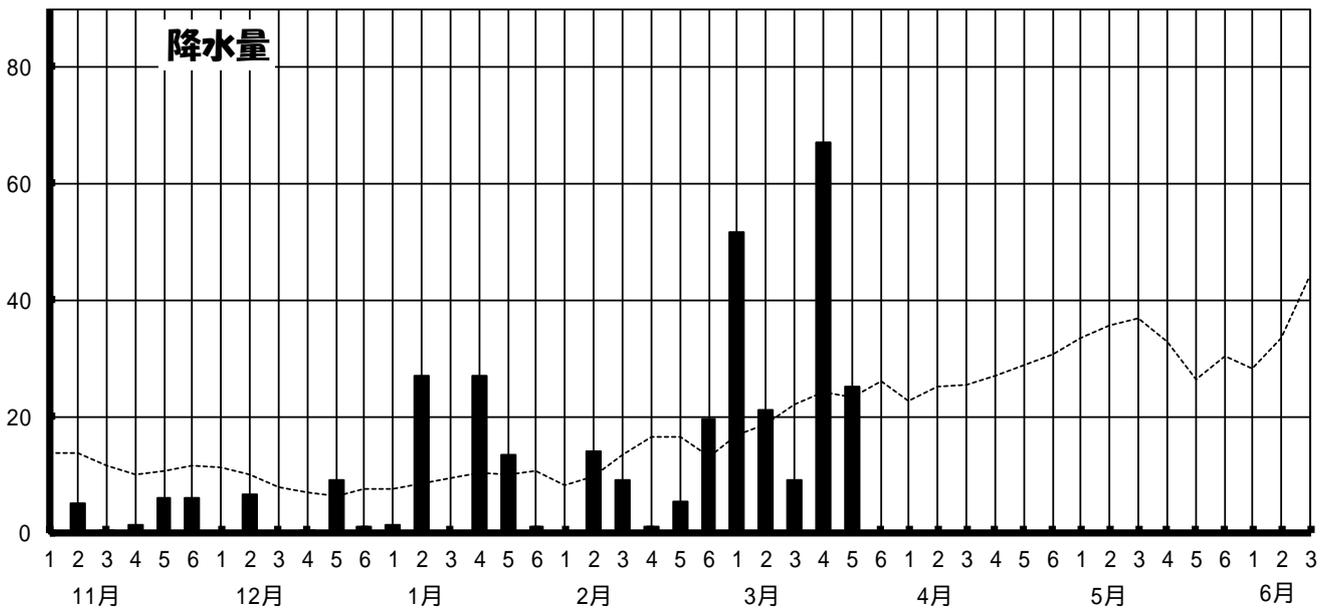
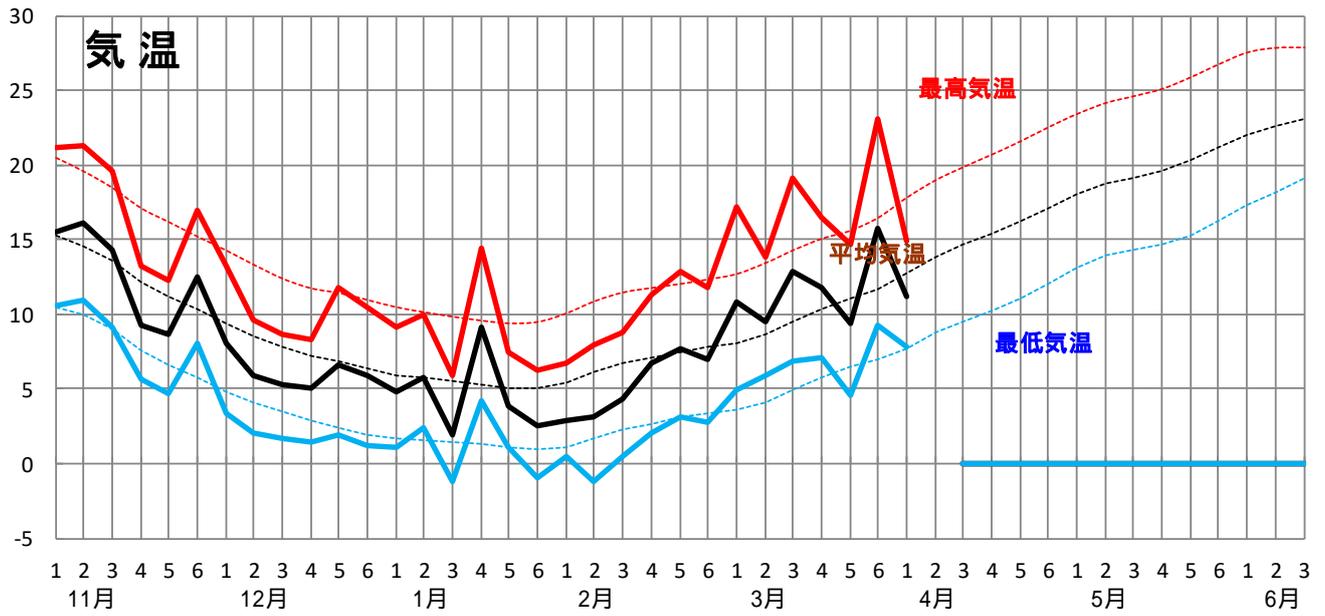
※ ■ は、出穂期 ← → は、赤かび病防除適期



防除薬剤：トップジン M ゾルなど(トップジン M 水和剤を大麦で使用する場合は、使用時期が収穫前 30 日前になっているので注意)

30年産麦類生育期間気象グラフ アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値